

去る御様 皇記お
此下の表、日と天との
の消息、月日に不審な
り、又慶長年中の、
宮といふこと、日野唯心
といふ少の記憶もあ
り、寛永六年中にも判
し、義経の唐あり、依
何長老の本支、回部日
にあたり、又系譜類に
あつした、果は前の
定は外なり。是は慶
長十七年のものにて、
大善福寺門跡一乗院
尊政の消息と知り
申す。一と事、
と云ふも、右の春日一乗院
あり、孝養も大
坂城中の尼かと云ふは、
大印所も家系あり、十
宮は尊政の附弟の弟、
尊法法親王なり

慶長十七年までは、大日本史
料にもその年の分、
付、引合、
合の点々多し。女子へ
しし手紙なれば、か
しにて、准后が政が
に、
の米を賜ひ、春日社
の時の手紙也。

尊政 近衛信尹の令兄
春日は春日まれば、
一乗院一跡あり、
は、
年の事件に非ず、
件が、
道是非なり。

十四日

